群馬県北部に在住する高校生の居住意向に関する研究

前橋工科大学　学生会員　○太田　壮一郎
前橋工科大学　正会員　森田　哲夫

1. はじめに

(1) 研究の背景

群馬県の高校の所在地が中部地域, 西部地域, 東部地域に集中しているため, 北部在住する高校生は, 通学に公共交通を利用している割合が高い傾向がある. 主に鉄道を利用しているため通学時間が長くなり, 北部の高校生は, 希望する高校への修学が制約されている可能性がある.

(2)研究の目的

研究背景から, 群馬県の北部に在住する高校生は, 中部, 西部, 東部の高校生と比べて通学の困難さなどから, 町村外もしくは県外への転出が高く, 将来的な転居意向が高いと考えられる.

本研究は, 群馬県北部に在住する高校生の通学特性及び交通特性を明らかにし, 居住意向の要因を明らかにすることを目的とする.

(3)既存研究と本研究の位置づけ

片田ら [1)]は農山村地域における転出･帰還行動をとりあげ, 過疎対策の効果についての考察を行い, 過疎問題の根本的解決には効果的な定住施策がより重要であることを明らかにしている.

根岸ら [2)]は転出者の持つ故郷への帰還意識の変化及び地域活動への参加意欲について取り上げており, 地域活動参加に意欲的な転出者は祭事においてよく帰省し, その場を介して知人や地域との交流を行っていることや, 転出者の多くは転出先の生活を経て故郷への関心を持ち始め, 具体的要因としては子どもが生まれた時に地域活動への参加意欲が高まることなどを明らかにしている.

上記のように居住意向に関する研究は多くみられる. しかし, 高校生を対象とした交通行動と居住意向の関連性について着目した研究はない. 現代では, 高校に進学するものが大半を占めているため, 高校生の居住意向を把握することは将来の人口動態を把握することにつながると考えられる. 本研究では, 高校生の通学特性と居住意向の関連性を明らかにし, その要因を把握する点が特徴である.

2. 研究方法

(1)研究対象地域

吾妻地域の高校所在地は町村に分かれているが, 利根・沼田地域は沼田市に集中している. また, 人口分布も沼田市に集中している. そのため, 利根・沼田地域と比較し, 吾妻地域は地域別の特性を把握することができる. 以上より, 群馬県吾妻地域（中之条町, 長野原町, 嬬恋村, 草津町, 高山村, 東吾妻町）を研究対象地域とする.

(2)使用データ

本研究では, 2010 年と 2015 年の国勢調査, 2015 年と 2016 年の群馬県パーソントリップ調査の調査票のうち「世帯票」,「個人票」,「補完票」のデータを主に使用する.

(3)分析の構成

図 1 に研究フロー図を示す. まず, 国勢調査を使用し, 吾妻地域の高校生の通学地と交通手段を分析し, 次に, 群馬県パーソントリップ調査の世帯票・個人票データを用い, 私用交通を含めた交通, 交通の発生・集中時刻, 移動時間を分析する. 3 つめに, パーソントリップ調査の補完票（交通・生活に関するアンケート票）のデータを用いる. 補完票では, 交通特性

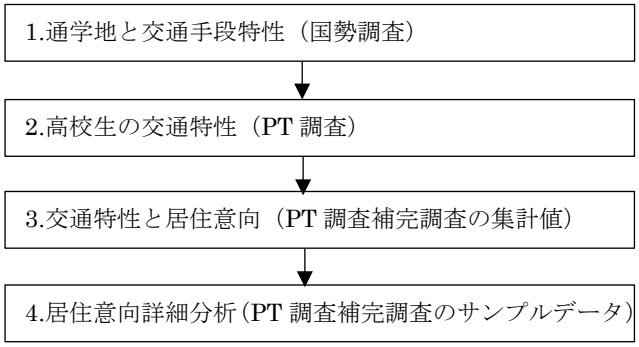


図 1　研究フロー

キーワード　国勢調査, パーソントリップ調査, 高校生, 通学, 居住意向

連絡先　〒371-0816 群馬県前橋市上佐鳥町 460-1 前橋工科大学 地域・交通計画研究室 TEL. 027-265-7362　E-mail: tmorita@maebashi-it.ac.jp

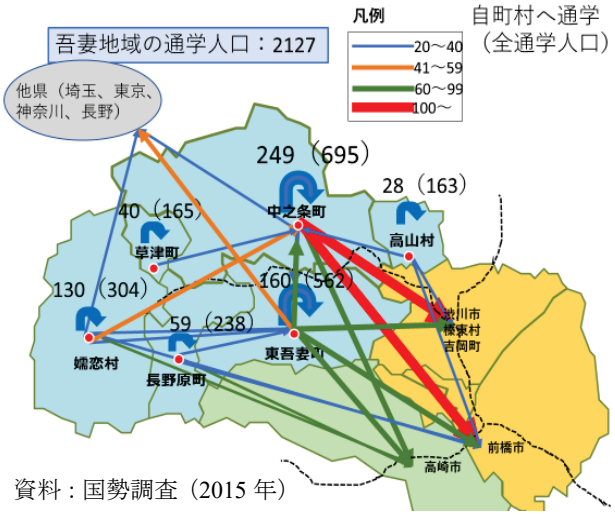
として，買物，娯楽・趣味等の頻度，交通手段等を調査している．居住意向としては，定住・移住意向とその理由等を調査している．最後に，補完票のサンプルデータにより交通特性と居住意向を詳細に分析する．

3. 吾妻地域の高校生の交通特性と居住意向

(1)通学地と交通手段特性

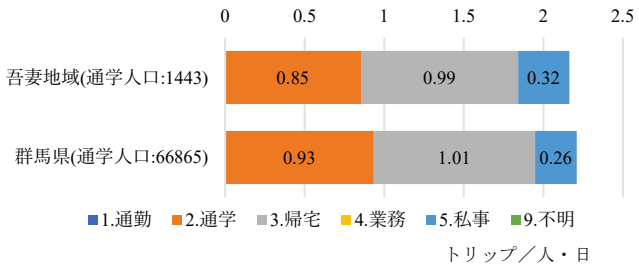
群馬県の高校 81 校は中部，西部，東部に集中しており，吾妻地域には 4 校しか存在しない（2016 年）．群馬県の高校生（15～19 歳，2019 年）は 97507 人であり，東部には 33992 人の高校生が在住しており，吾妻地域が 2380 人と最も少ない在住数である．

図 2 に国勢調査による居住地･通学地（15 歳以上）の集計結果を示した．この図から吾妻地域の通学人口は，渋川市等と前橋市等，高崎市の高校への通学が多く，特に中之条町では渋川市等と前橋市等への通学が多い．また，吾妻地域から他市町村への通学に利用する交通手段は，鉄道，自家用車を利用している．一方で，草津町と高山村は町村内に鉄道駅が存在していないことから他市町村の鉄道駅までの交通手段として乗り合いバスを利用している通学者が草津町に 157 人中 77 人，高山村に 187 人中 68 人おり半数の通学者が乗り合いバスを利用している．



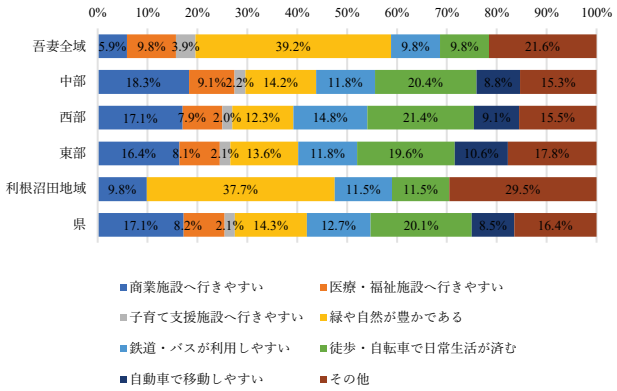
資料：国勢調査（2015 年）

図 2　吾妻地域の居住地・通学地



資料：群馬県パーソントリップ調査（2016 年）

図 3　高校生の生成原単位



資料：群馬県パーソントリップ調査（2016 年）

図 4　高校生（16~19 歳）の定住意向の理由

(2)高校生の交通特性

群馬県パーソントリップ調査の個人票データより，吾妻地域と群馬県の高校生の生成原単位を図 3 に示す．吾妻地域の高校生の通学目的の生成原単位は，県全体よりも小さく，通学交通の移動制約があることが考えられる．また，私事目的の生成原単位が大きいことから，通学時間の帰り道などを用い，買物，娯楽・趣味，塾等の時間をとっていると考えられる．

(3)居住意向

群馬県パーソントリップ調査の補完票データよると，吾妻地域の在住者は，16 歳から 19 歳が最も転居意向が高く，定住意向が 44.7%，転居意向 47.4%がとなっている．群馬県の地域別の高校生の（16~19 歳）の定住意向の理由を図 4 に示す．定住意向の者は，「緑や自然が豊かである」の回答率が高く，群馬県と比較すると「商業施設へ行きやすい」と「徒歩・自転車で日常生活が済む」が低いことから，これら理由を重要視する高校生は転居意向が高いとが考えられる．

4. まとめ

鉄道を通学に利用している吾妻地域の高校生は，群馬県の高校生と比較して転居意向が高いことがわかった．その一方で，定住意向のある高校生は，生活の利便性よりも吾妻地域の魅力である緑と自然の豊かさを重視していることがわかった．

参考文献

1) 片田敏孝，廣畠康裕，青島縮次郎：農山村地域における転出・帰還行動のモデル化に関する基礎研究，土木学会論文集，No.419，pp.105-114，1990
2) 根岸亮太，後藤春彦，田口太郎，井上由梨：転出者の故郷における地域活動支援への参加意識に関する研究－埼玉県秩父市宮地町からの転出者を対象として－，都市計画学会論文集，No.40-3，pp.973-978，2005